

2019 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|---|-------------|---|------------------------------------|------------------------------|-------------------|---------------|
| 学 科 | 理学療法士学科 | | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
| 科 目 名 | 社会学 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 昼間部1年 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 903 |
| 担 当 教 員 | 大槻 哲也 | 実務経験とその関連資格 | 理学療法士として北大阪警察病院に勤務経験あり。修士(健康科学)取得。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| <p>クラス内での承認欲求を満たし、自己実現の欲求を高めるとともに医療人を目指す心構えの育成、学習方法の習得、学習動機を高め、安定した学習習慣を習得することで医療人を目指す社会人としての素養を形成することを目的とする。また、筋・骨格系解剖学の国家試験出題範囲の名称・部位・作用を習得し、基礎医学力を身につけることを目的とする。</p> | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| <p>筋・骨格系解剖学の国家試験出題範囲の確認テストを実施し、そのテストの合計点を得点(100点)とする。学習動機の向上については、アンケートにて状況を確認する。</p> | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 標準理学療法・作業療法解剖学 補助教材としてIpadを使用 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 標準理学療法・作業療法解剖学およびその他解剖学教科書やIT機器を用いて、授業外でも予習・復習を行う。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 自己実現欲求や学習動機が高まった時、どのように勉強に活かすのか？どのように問題解決を図るのか？自ら学ぶ学生を育成したいと思っている。また、本授業では、基礎医学となる解剖学の知識を深める内容も含まれるが、アクティブラーニングで主体的に学んでほしい。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 理学療法士を目指した志望動機を改めて認識ができる | | ワークシート | | |
| | 各コマにおける授業予定 | クラス内での承認欲求を満たす為、アイスブレイクおよび何故、理学療法士を目指し、理学療法士になった後、どうなりたいのか？についてディスカッションする。 | | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 学生としての行動指針を見出し、情報共有ができる | | ワークシート | | |
| | 各コマにおける授業予定 | これから、医療人・理学療法士を目指すにあたり、どのような行動や心構えが必要かを議論し、クラス内で情報共有する。 | | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 理学療法士の楽しさを知ることで学習動機が向上できる | | ワークシート | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 学習動機を向上させるため、理学療法士の楽しさ・社会での役割・これからの方向性について理解し、学習動機を向上させる(他教員の話聞く)。 | | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | PDCAサイクルの概念を学び、理解することができる | | ワークシート | 脊髄損傷症例の動画を確認する | |
| | 各コマにおける授業予定 | 学習方法や問題解決方法として、(PDCAサイクルの思考過程を学ぶ)そして、自ら問題解決ができるノウハウを学ぶ。 | | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 腋窩神経領域の支配筋と作用が理解できる | | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 腋窩神経領域の支配筋 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学(脊髄損傷患者を例に解剖学を学ぶ)※授業の最後に確認テストを実施 腋窩神経○支配領域:C5~C6○筋支配:三角筋→肩関節(上腕)外転 | | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|------------------------------|-------------------|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 筋皮神経領域の支配筋と作用が理解できる | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 筋皮神経領域の支配筋 |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学(脊髄損傷患者を例に解剖学を学ぶ)※授業の最後に確認テストを実施 筋皮神経○支配領域:C5~C6○筋支配:上腕二頭筋など(上腕屈筋)→肘屈曲と前腕回外 | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 橈骨神経領域の支配筋と作用が理解できる | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 橈骨神経領域の支配筋 |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学(脊髄損傷患者を例に解剖学を学ぶ)※授業の最後に確認テストを実施 橈骨神経○支配領域:C5~C8○筋支配:上腕三頭筋など(上腕伸筋群)→肘伸展と前腕回外前腕の伸筋群→手根背屈 | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | 正中神経領域の支配筋と作用が理解できる | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 正中神経領域の支配筋 |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学(脊髄損傷患者を例に解剖学を学ぶ)※授業の最後に確認テストを実施 正中神経○支配領域:C6~T1○筋支配:前腕の屈筋群→前腕回内、手根掌屈 母指球筋→母指から中指屈曲・母指対立 | | |
| 第9回 | 授業を通じての到達目標 | 尺骨神経領域の支配筋と作用が理解できる | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 尺骨神経領域の支配筋 |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学(脊髄損傷患者を例に解剖学を学ぶ)※授業の最後に確認テストを実施 尺骨神経○支配領域:C8~T1○筋支配:前腕前面尺側筋群→手根掌屈 手掌尺側の筋群→指の開閉 | | |
| 第10回 | 授業を通じての到達目標 | 大腿神経領域の支配筋と作用が理解できる | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 大腿神経領域の支配筋 |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学(脊髄損傷患者を例に解剖学を学ぶ)※授業の最後に確認テストを実施 大腿神経○支配領域:L2~L4○筋支配:腸腰筋→大腿の屈曲(股) | | |
| 第11回 | 授業を通じての到達目標 | 閉鎖神経領域の支配筋と作用が理解できる | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 閉鎖神経領域の支配筋 |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学(脊髄損傷患者を例に解剖学を学ぶ)※授業の最後に確認テストを実施 閉鎖神経○支配領域:L2~L4○筋支配:長内転筋、薄筋→大腿の内転(股) | | |
| 第12回 | 授業を通じての到達目標 | 坐骨神経領域の支配筋と作用が理解できる | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 坐骨神経領域の支配筋 |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学(脊髄損傷患者を例に解剖学を学ぶ)※授業の最後に確認テストを実施 坐骨神経○支配領域:L4~S3○筋支配:膝屈筋群→下腿の屈曲(膝) | | |
| 第13回 | 授業を通じての到達目標 | 総腓骨神経の支配筋と作用が理解できる | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 総腓骨神経領域の支配筋 |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学(脊髄損傷患者を例に解剖学を学ぶ)※授業の最後に確認テストを実施 総腓骨神経○支配領域:L4~S2○筋支配:前脛骨筋など→足首、足趾の背屈 | | |
| 第14回 | 授業を通じての到達目標 | 脛骨神経の支配筋と作用が理解できる | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 脛骨神経領域の支配筋 |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学(脊髄損傷患者を例に解剖学を学ぶ)※授業の最後に確認テストを実施 脛骨神経○支配領域:L5~S3○筋支配:下腿三頭筋など→足首、足趾の底屈 | | |
| 第15回 | 授業を通じての到達目標 | 今まで学習した解剖学知識が定着している | 標準理学療法・作業療法解剖学補助教材としてIpadを使用 | 総復習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋・骨格系解剖学の総復習 | | |